

プレスリリース

2017年9月12日

ポータブルマルチメディア IP 伝送装置 MDP3020 を新発売

株式会社メディアリンクス（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長 ジョン・デイル 以下メディアリンクス）は、2017年9月にオランダ アムステルダムで開催される国際的な放送機器の展示会 IBC で、新製品のポータブルマルチメディア IP 伝送装置 MDP3020 を発表します。

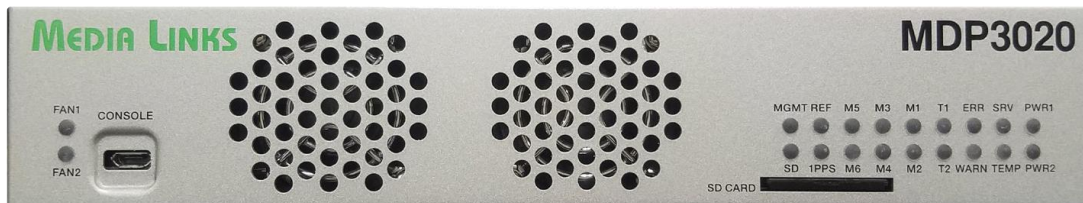
製品の特長

今回発売する新製品 MDP3020 は、低価格、ポータブルが大きな特徴で、さらに機能面では、映像伝送機器として定評のあるメディアリンクス従来製品の技術を引き継いでおり、効率性や相互接続性が要求されるライブ映像のソースネットワーク向けの製品として、高品質の映像伝送を実現します。

近年、放送業界では、ニーズの多様化に対応するため、柔軟性の高い設備投資の検討が進んでいますが、MDP3020 は、メディアリンクスが推進している IP 伝送の国際規格 SMPTE2022 に準拠しており、安定性、確実性が要求される基幹ネットワークにおいても他社製品との相互接続が可能で、柔軟性の高い映像ネットワーク構築を実現します。当社の IP 伝送装置 MD8000 をすでに基幹ネットワークとして採用いただいているお客様は、相互接続性により容易に構成追加が可能です。また、ポイント・ツー・ポイントのファイバーネットワークにおいても、最小限のコストで、最も効率的なネットワーク構築を実現します。

さらに、放送局や通信会社だけでなく、高い映像品質が要求される病院、学術機関、企業、公営競技場、スポーツライブ用施設等の、中・小規模ネットワークを効率的に構築したいお客様にも最適な製品です。

MDP3020正面図

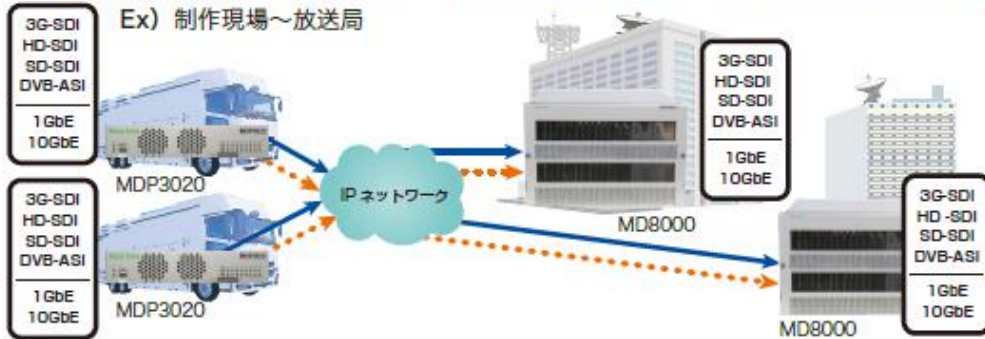


215mm (W) × 42mm (H) × 300 (D)

本件に関するお問い合わせ 株式会社メディアリンクス IR 広報室 044-589-3440

活用事例

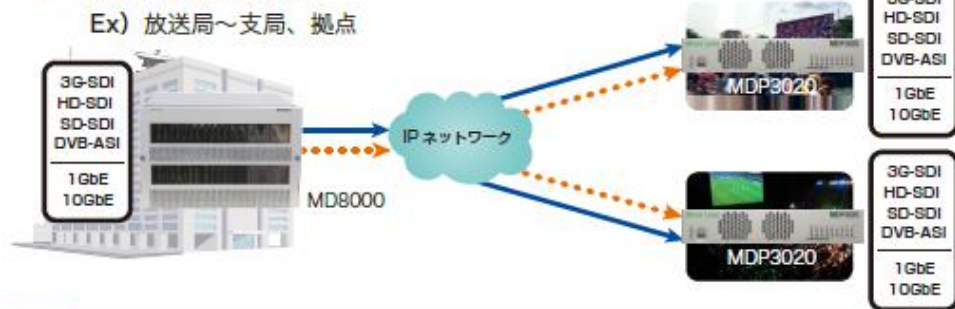
<コントリビューションアプリケーションにおけるエッジ・デバイス (送信機利用)>



メリット

送信機を最小コストにて提供可能。コスト試算において、最適なネットワークデザインを実現。

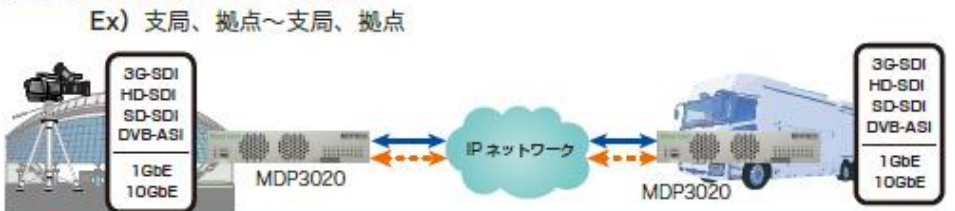
<ディストリビューションアプリケーションにおける、リモートでのビデオ再生デバイス (受信機利用)>



メリット

ネットワーク全体の総コストの効率化を実現。中・長期的な拠点増設計画も容易に実現。

<ポイント・ツー・ポイントやローカルエリアでのビデオ及び配信アプリケーション (送信機・受信機、ペアで使用)>



メリット

最小限の予算によるミニマムなネットワーク構築が可能。カメラとのリモートプロダクション連携も容易に実現。

— 現用系 予備系